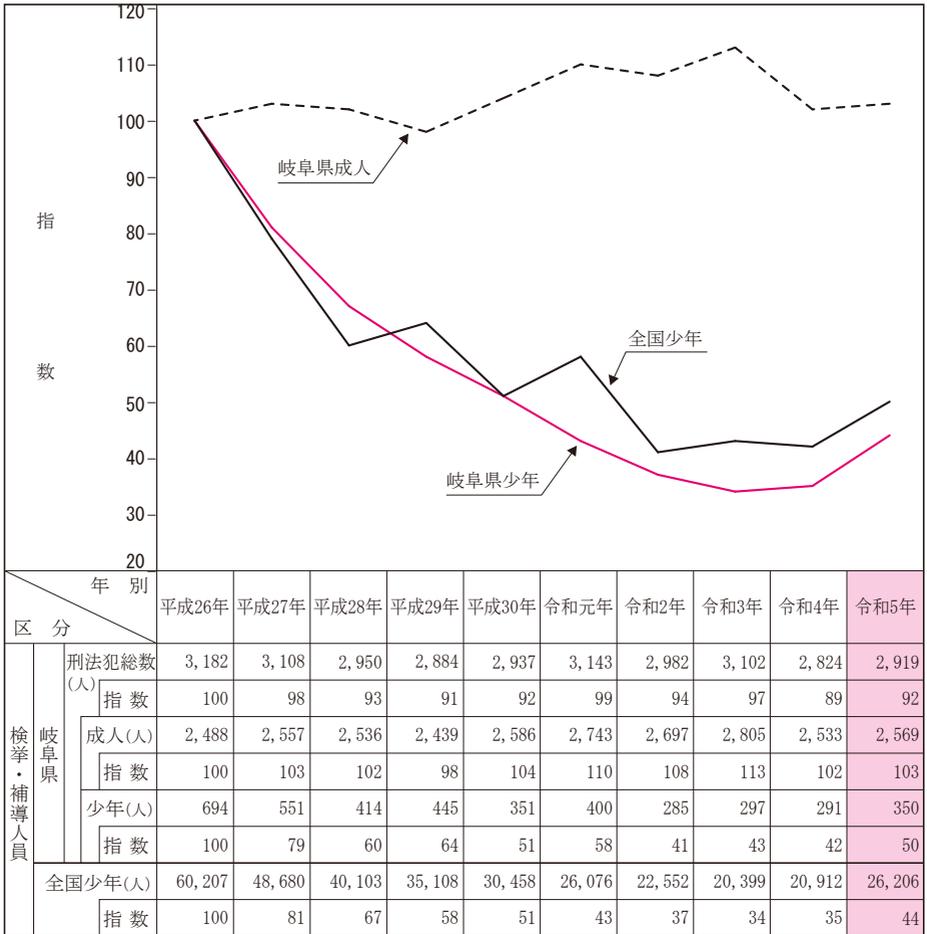


第2 刑法犯少年

1 年別推移

- 刑法犯少年は350人で、前年に比べ59人（20.3%）増加した。
- 全国で検挙・補導した刑法犯少年は26,206人で、前年と比べ5,294人（25.3%）増加した。

刑法犯少年の年別推移

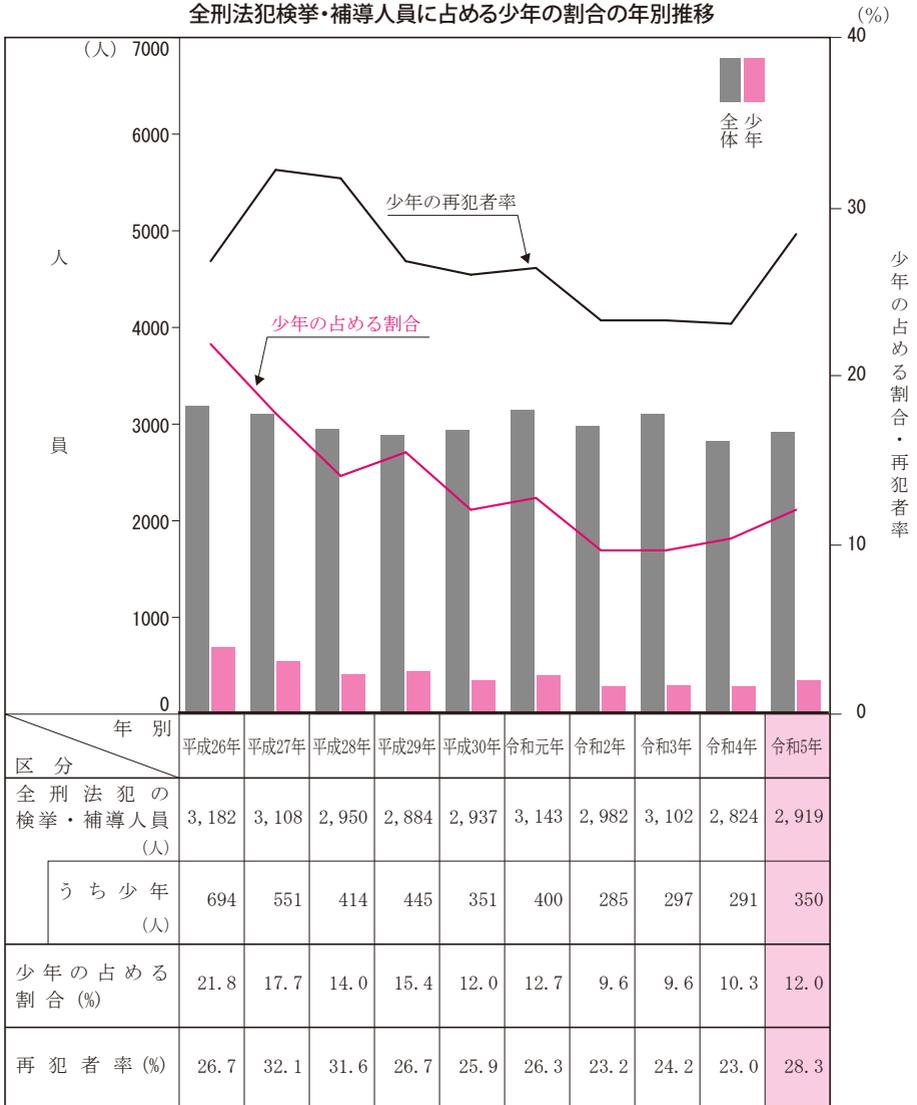


(注) 指数欄は平成26年を100とした指数を示す。

2 全刑法犯検挙・補導人員に占める少年の割合

- 成人を含めた全刑法犯検挙・補導人員2,919人中に占める少年の割合は12.0%で、前年に比べ1.7ポイント増加した。
- 刑法犯少年(触法少年を含む)の再犯者率は28.3%で、前年より5.3ポイント増加した。

全刑法犯検挙・補導人員に占める少年の割合の年別推移



3 罪種別

- 刑法犯少年の罪種別構成比を見ると、窃盗が60.9%と最も多く、次いで暴行10.3%、傷害7.7%、器物損壊3.1%の順であった。
- 初発型非行（万引き、自転車盗、オートバイ盗、占有離脱物横領）は177人で、刑法犯少年全体の50.6%を占めており、前年に比べ10.7ポイント増加した。
- ニセ電話詐欺（特殊詐欺）による検挙は3人で、前年に比べ1人増加した。

刑法犯少年の罪種別状況

(人)

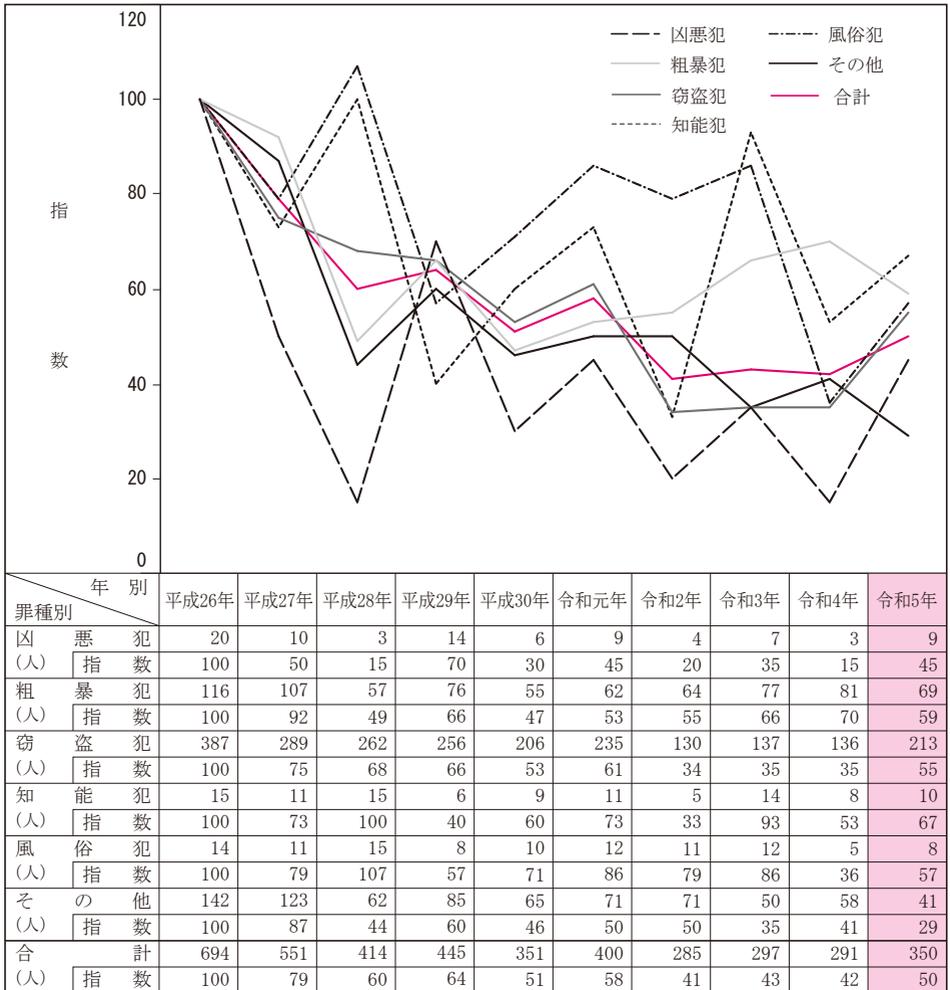
罪種別		令和 5 年		令和 4 年		前年対比 (増減)	
		人 員	構成比 (%)	人 員	構成比 (%)	人 員	比率 (%)
凶 悪 犯	殺 人	1	0.3	0	0.0	1	—
	強 盗	6	1.7	0	0.0	6	—
	放 火	1	0.3	1	0.3	0	0.0
	不 同 意 性 交 等	1	0.3	2	0.7	▲ 1	▲ 50.0
	小 計	9	2.6	3	1.0	6	200.0
粗 暴 犯	凶 器 準 備 集 合	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	暴 行	36	10.3	48	16.5	▲ 12	▲ 25.0
	傷 害	27	7.7	24	8.2	3	12.5
	恐 喝	1	0.3	4	1.4	▲ 3	▲ 75.0
	脅 迫	5	1.4	5	1.7	0	0.0
小 計	69	19.7	81	27.8	▲ 12	▲ 14.8	
窃 盗 犯		213	60.9	136	46.7	77	56.6
知 能 犯	詐 欺	9	2.6	7	2.4	2	28.6
	そ の 他	1	0.3	1	0.3	0	0.0
	小 計	10	2.9	8	2.7	2	25.0
風 俗 犯	不 同 意 わ い せ つ	1	0.3	3	1.0	▲ 2	▲ 66.7
	そ の 他	7	2.0	2	0.7	5	250.0
	小 計	8	2.3	5	1.7	3	60.0
そ の 他	占 有 離 脱 物 横 領	7	2.0	13	4.5	▲ 6	▲ 46.2
	盗 品 譲 受 け 等	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	器 物 損 壊	11	3.1	17	5.8	▲ 6	▲ 35.3
	そ の 他	23	6.6	28	9.6	▲ 5	▲ 17.9
	小 計	41	11.7	58	19.9	▲ 17	▲ 29.3
合 計		350	100.0	291	100.0	59	20.3

(注) ▲印は、減少を示す。

○ 罪種別では、成人を含めた全凶悪犯（殺人、強盗、放火、不同意性交等）46人中、少年は9人でその割合は19.6%となった。

また、全粗暴犯（暴行、傷害、脅迫、恐喝）1,031人中、少年は69人でその割合は6.7%、窃盗犯1,352人中、少年は213人でその割合は15.8%であった。

刑法犯少年の罪種別の年別推移



(注) 指数欄は、平成26年を100とした指数を示す。

4 原因・動機別

- 刑法犯少年の非行の原因・動機では、「所有・消費目的」が最も多く、次いで、「憤怒」、「遊び・好奇心・スリル」、「遊興費充当」の順であった。
- 年齢別では、14歳未満が79人で最多となった。

刑法犯少年の原因・動機別状況

(人)

原因 動機別	合 計	生	遊	債	一	所	そ	怨	憤	痴	性	服	遊	自	そ
		活 困 窮	興 費 充 当	務 返 済	時 的 盗 用	有 ・ 消 費 目 的	の 他 の 利 欲	恨 怒	情 求	的 欲 合	遊 び ・ 好 奇 心 ・ ス リ ル	己 顕 示	の 他		
合計	350	9	25	2	5	185	8	5	58	1	14	2	29	2	5
構成比 (%)	100	2.6	7.1	0.6	1.4	52.9	2.3	1.4	16.6	0.3	4.0	0.6	8.3	0.6	1.4
罪 種 別	凶 悪 犯	9				6					1		1		1
	粗 暴 犯	69	1				1	4	55		1	2		2	3
	窃 盗 犯	213	7	20	1	5	171	4			3		2		
	知 能 犯	10	1	5	1		1	1					1		
	風 俗 犯	8									6		2		
	そ の 他	41					7	2	1	3	1	3		23	1
年 齢 別	1 4 歳 未 満	79		3		1	49		1	13		2	2	6	2
	1 4 歳	45					29	2		10		1		3	
	1 5 歳	51	1	4			29	3		9				2	2
	1 6 歳	59	2	2			34	3		6		2		10	
	1 7 歳	42		5		2	20			4		3		7	1
	1 8 歳	41	3	4		2	17		2	7		4		1	1
	1 9 歳	33	3	7	2		7		2	9	1	2			
学 職 別	未 就 学	0													
	小 学 生	37		1		1	22			7		1		3	2
	中 学 生	105		4			66	3	1	19		2	2	7	1
	高 校 生	98	1	5		2	55	3	1	7		8		14	2
	その他の学生	8		1		1	3			1		2			
	有 職 少 年	62	2	9		1	19	1	2	22	1			5	
	無 職 少 年	40	6	5	2		20	1	1	2		1			2

5 窃盗犯少年の学職別・手口別

- 窃盗犯少年は213人で、前年に比べ77人（56.6%）増加した。
- 手口別では、万引きが132人で最も多く、窃盗犯全体の62.0%を占め、次いで自転車盗の32人（15.0%）、オートバイ盗の6人（2.8%）の順であった。
- 街頭犯罪（自動車盗、オートバイ盗、自転車盗、車上ねらい、部品ねらい、自販機ねらい、ひったくり）は48人で、自転車盗が32人（66.7%）と最も多く、次いでオートバイ盗が6人（12.5%）、車上ねらい、ひったくりは同数の4人（8.3%）であった。
- 学職別では、中学生が67人（31.5%）と最も多く、次いで高校生が63人（29.6%）、有職少年が29人（13.6%）、小学生が26人（12.2%）、無職少年が24人（11.3%）の順であった。

窃盗犯少年の学職別・手口別状況

(人)

手口別	学職別 未就学	学 生 ・ 生 徒				有職少年	無職少年	合 計	前年対比(増減)	
		小学生	中学生	高校生	その他				人 員	比率(%)
侵 入 盗	空 き 巢		1			1	2	0	0.0	
	学 校 荒 し	1					1	1	—	
	忍 び 込 み						1	1	—	
	出 店 荒 し		1	1			3	3	—	
	工 場 荒 し						0	0	0.0	
	そ の 他		3			1	3	7	1	16.7
	小 計	0	1	5	1	0	2	5	14	6
非 侵 入 盗	万 引 き	24	47	34	1	11	15	132	47	55.3
	自 転 車 盗		9	19	2	1	1	32	16	100.0
	オ ー ト バ イ 盗		3	1		2		6	4	200.0
	自 動 車 盗					1	1	2	2	—
	ひ っ た く り		1	1		2		4	4	—
	自 販 機 ね ら い							0	0	0.0
	車 上 ね ら い	1		2		1		4	2	100.0
	部 品 ね ら い							0	▲ 2	▲ 100.0
	そ の 他		2	5	1	9	2	19	▲ 2	▲ 9.5
	小 計	0	25	62	62	4	27	19	199	71
合 計	0	26	67	63	4	29	24	213	77	56.6
	構 成 比 (%)	0.0	12.2	31.5	29.6	1.9	13.6	11.3	100.0	
前年対比	人 員	0	▲ 6	36	33	▲ 3	2	15	77	
(増減)	比率(%)	0.0	▲ 18.8	116.1	110.0	▲ 42.9	7.4	166.7	56.6	

(注) ▲印は、減少を示す。

6 学職別

○ 刑法犯少年を学職別で見ると、中学生（107人）、高校生（98人）、有職少年（62人）、無職少年（38人）、小学生（37人）、その他の学生（8人）の順であった。

中学生・高校生で全体の58.6%を占めており、前年に比べ8.1ポイント増加しており、依然として非行の中心であるといえる。

刑法犯少年の学職別・罪種別状況

(人)

罪種別		学職別	合計	未就学	学 生 ・ 生 徒				有職少年	無職少年
					小学生	中学生	高校生	その他		
凶 悪 犯	殺 人		1					1		
	強 盗		6					2	4	
	放 火		1			1				
	不 同 意 性 交 等		1			1				
	小 計		9	0	0	0	2	0	3	4
粗 暴 犯	凶 器 準 備 集 合		0							
	暴 行		36		6	16	5	8	1	
	傷 害		27		3	6	3	1	13	1
	恐 喝		1					1		
	脅 迫		5				2	2	1	
小 計		69	0	9	22	10	1	24	3	
窃 盗 犯		213		26	67	63	4	29	24	
知 能 犯	詐 欺		9			2	2		5	
	そ の 他		1				1			
	小 計		10	0	0	2	3	0	0	5
風 俗 犯	不 同 意 わ い せ つ		1			1				
	そ の 他		7				4	2	1	
	小 計		8	0	0	1	4	2	0	1
そ の 他	占 有 離 脱 物 横 領		7			4	1	1	1	
	盗 品 譲 受 け 等		0							
	器 物 損 壊		11		1	5	3		2	
	そ の 他		23		1	6	12		4	
小 計		41	0	2	15	16	1	6	1	
合 計			350	0	37	107	98	8	62	38
構 成 比 (%)			100	0.0	10.6	30.6	28.0	2.3	17.7	10.9
前 年 対 比 (増 減)	人 員		59	0	▲ 16	31	27	▲ 10	6	21
	比 率 (%)		20.3	0.0	▲ 30.2	40.8	38.0	▲ 55.6	10.7	123.5

(注) ▲印は、減少を示す。

- 刑法犯少年の過去10年間における学職別推移は、以下のとおり。
- 中学生、高校生、有職少年、無職少年は、前年より増加している。

刑法犯少年の学職別・年別推移

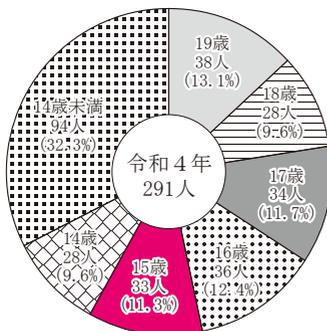
(人)

学職別		年 別									
		平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
未 就 学											
学 生 ・ 生 徒	小 学 生	46	46	46	58	43	53	33	50	53	37
	中 学 生	211	215	129	118	115	122	51	76	76	107
	高 校 生	269	129	94	118	91	103	90	95	71	98
	そ の 他	18	13	24	16	14	19	24	8	18	8
有 職 少 年		96	95	82	93	43	79	67	54	56	62
無 職 少 年		54	53	39	42	45	24	20	14	17	38
合 計		694	551	414	445	351	400	285	297	291	350

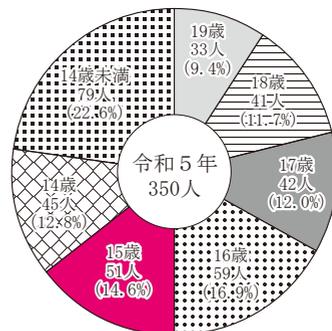
7 年 齢 別

- 刑法犯少年を年齢別で見ると、14歳未満が79人と最も多く、次いで16歳、15歳の順となっている。

刑法犯少年の年齢別状況



占有率	14歳と15歳	20.9%
	16歳と17歳	24.1%



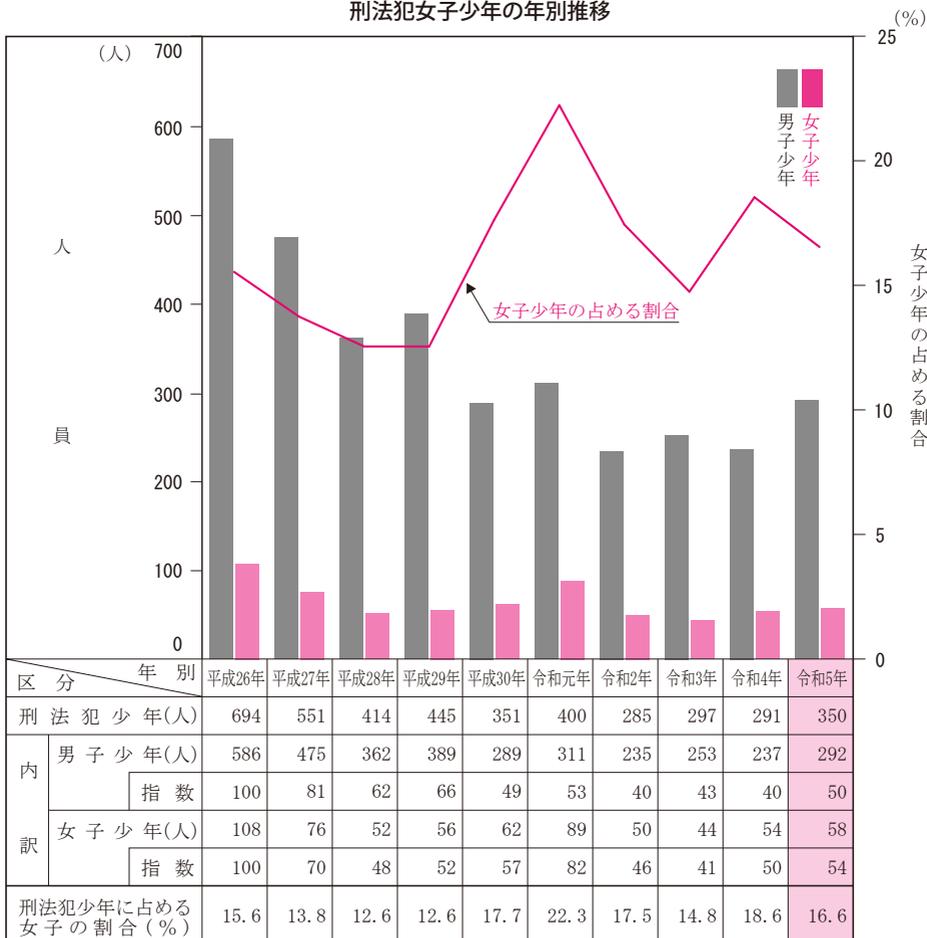
占有率	14歳と15歳	27.4%
	16歳と17歳	28.9%

8 女子少年の非行

(1) 年別推移

- 刑法犯少年350人のうち、女子少年は58人（16.6%）で、昨年より4人増加した。
- 平成年間以降で女子少年の割合が最も高かったのは平成9年（2,226人のうち625人、28.1%）で、令和5年よりも11.5ポイント高い。

刑法犯女子少年の年別推移



(注) 指数欄は、平成26年を100とした指数を示す。

(2) 罪種・手口別

- 刑法犯女子少年を罪種・手口別で見ると、万引きが40人と最も多く、次いで傷害、暴行および自転車盗の順であった。
- 女子少年の初発型非行（万引き、自転車盗、占有離脱物横領）は44人で、その構成比は75.9%を占め、男子少年の45.5%と比べ、30.4ポイント高くなった。

(3) 学職別

- 学職別に見た女子少年の構成比は、中学生が32.8%、次いで高校生が29.3%、小学生の15.5%の順であった。

女子少年の罪種別・学職別状況

(人)

罪種・手口別	学職別	未就学	学 生 ・ 生 徒				有職少年	無職少年	合 計	前年対比(増減)	
			小学生	中学生	高校生	その他				人 員	比率(%)
凶 悪 犯	殺 人							0	0	0.0	
	強 盗							0	0	0.0	
	放 火							0	0	0.0	
	不同意性交等							0	0	0.0	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
粗 暴 犯	凶器準備集合							0	0	0.0	
	暴 行			1	1		1	3	▲ 4	▲ 57.1	
	傷 害			1	1		2	4	1	33.3	
	恐 喝						1	1	1	—	
	脅 迫							0	0	0.0	
計	0	0	2	2	0	4	8	▲ 2	▲ 20.0		
窃 盗 犯	万 引 き		8	15	11		2	40	14	53.8	
	自 転 車 盗			1	2			3	▲ 1	▲ 25.0	
	オートバイ盗							0	0	0.0	
	そ の 他						2	2	▲ 4	▲ 66.7	
	計	0	8	16	13	0	4	45	9	25.0	
知 能 犯	詐 欺						1	1	▲ 2	▲ 66.7	
	そ の 他							0	0	0.0	
	計	0	0	0	0	0	0	1	▲ 2	▲ 66.7	
風 俗 犯	不同意いせつ							0	0	0.0	
	そ の 他				1			1	0	0.0	
	計	0	0	0	1	0	0	1	0	0.0	
そ の 他	占有離脱物横領			1				1	1	—	
	そ の 他		1		1			2	▲ 2	▲ 50.0	
	計	0	1	1	1	0	0	3	▲ 1	▲ 25.0	
合 計	計	0	9	19	17	0	8	5	58	4	7.4
	構成比(%)	0.0	15.5	32.8	29.3	0.0	13.8	8.6	100.0		
前年対比	人 員	0	▲ 7	9	2	▲ 1	1	0	4		
	比率(%)	0.0	▲43.8	90.0	13.3	▲100.0	14.3	0.0	7.4		

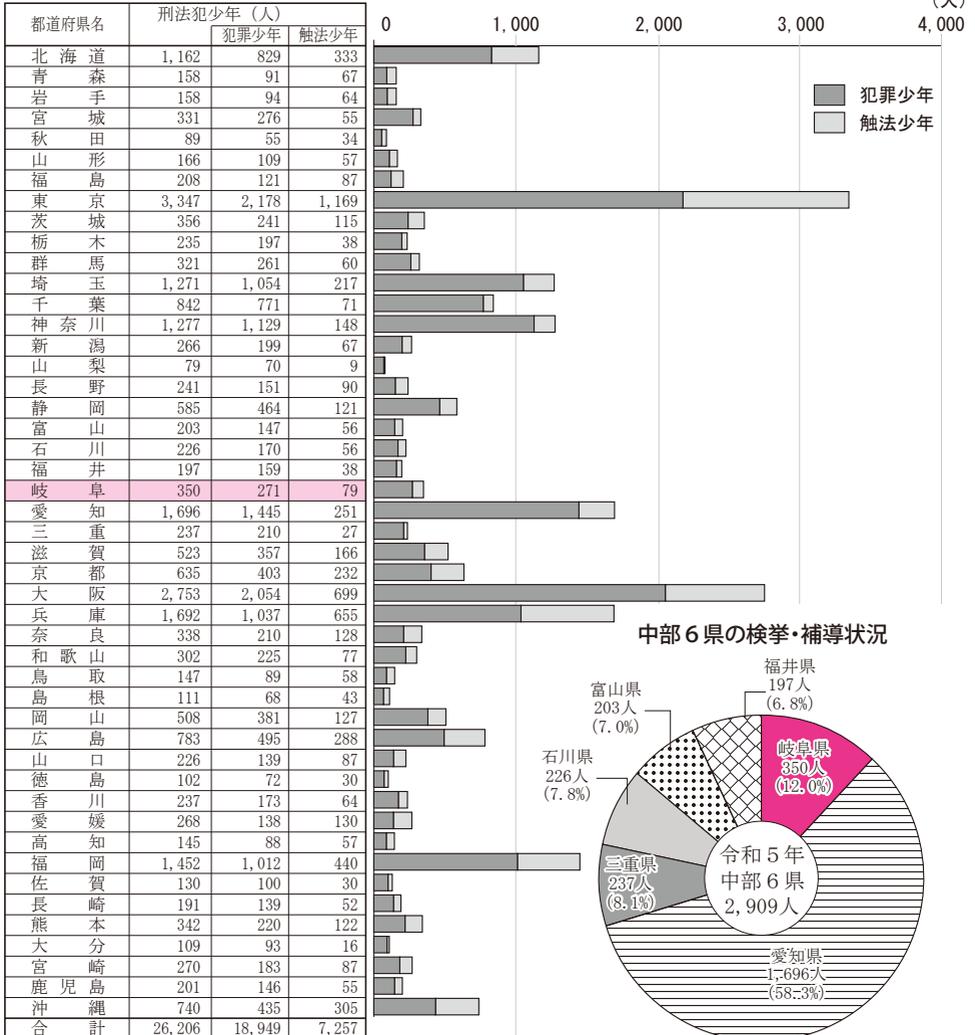
(注) ▲印は、減少を示す。

9 全国に占める岐阜県の位置

(1) 刑法犯少年の検挙・補導人員

- 岐阜県の刑法犯少年の検挙・補導人員は350人で、都道府県別人員は以下に示したとおりである。

都道府県別の検挙・補導人員



(注) 県独自集計による。

(2) 全刑法犯検挙・補導人員に占める少年の割合

- 岐阜県の成人を含めた全刑法犯の検挙・補導人員に占める少年の割合は12.0%で、前年に比べ1.7ポイント増加した。

都道府県別全刑法犯検挙・補導人員に占める少年の割合

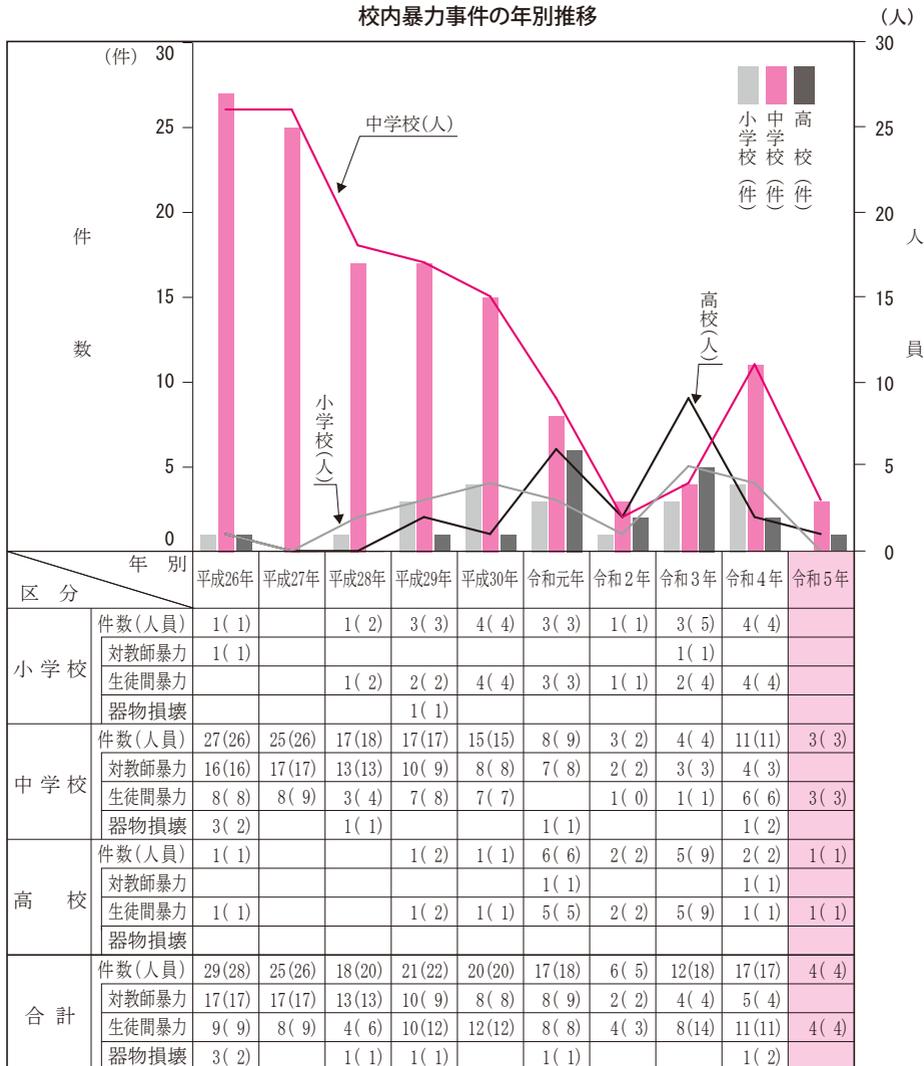
都道府県名	全 刑 法 犯 検 挙 ・ 補 導 人 員			少年の占める割合(%)
	(人)	うち成人	うち少年	
北海道	9,061	7,899	1,162	12.8
青森	1,480	1,322	158	10.7
岩手	1,103	945	158	14.3
宮城	2,959	2,628	331	11.2
秋田	938	849	89	9.5
山形	1,360	1,194	166	12.2
福島	2,133	1,925	208	9.8
東京都	23,137	19,790	3,347	14.5
茨城	3,489	3,133	356	10.2
栃木	2,207	1,972	235	10.6
群馬	3,125	2,804	321	10.3
埼玉	10,190	8,919	1,271	12.5
千葉	7,660	6,818	842	11.0
神奈川県	10,860	9,583	1,277	11.8
新潟	2,762	2,496	266	9.6
山梨	874	795	79	9.0
長野	1,978	1,737	241	12.2
静岡県	5,549	4,964	585	10.5
富山	1,883	1,680	203	10.8
石川	1,575	1,349	226	14.3
福井	1,221	1,024	197	16.1
岐阜県	2,919	2,569	350	12.0
愛知	12,549	10,853	1,696	13.5
三重	2,143	1,906	237	11.1
滋賀	2,613	2,090	523	20.0
京都	4,089	3,454	635	15.5
大阪	16,465	13,712	2,753	16.7
兵庫県	11,607	9,915	1,692	14.6
奈良	2,377	2,039	338	14.2
和歌山	1,782	1,480	302	16.9
鳥取	986	839	147	14.9
島根	790	679	111	14.1
岡山	2,930	2,422	508	17.3
広島	4,251	3,468	783	18.4
山口	1,669	1,443	226	13.5
徳島	720	618	102	14.2
香川	1,714	1,477	237	13.8
愛媛	1,866	1,598	268	14.4
高知	975	830	145	14.9
福岡	9,363	7,911	1,452	15.5
佐賀	1,229	1,099	130	10.6
長崎	1,695	1,504	191	11.3
熊本	2,462	2,120	342	13.9
大分	1,099	990	109	9.9
宮崎	1,423	1,153	270	19.0
鹿児島	1,982	1,781	201	10.1
沖縄	3,284	2,544	740	22.5
合 計	190,526	164,320	26,206	13.8

(注) 県独自集計による。

10 校内暴力事件

- 校内暴力事件による検挙・補導は4件4人で、前年に比べ件数は13件減少し、人員も13人減少した。
- 態様別では、生徒間暴力が4件4人であった。
- 学職別では、中学生が3件3人と最も多く、次いで高校生の1件1人であった。

校内暴力事件の年別推移



(注) () 内の数値は、人員数を示す。

11 いじめに起因する事件

- いじめに起因する事件での検挙・補導は2件2人で、前年と比べ件数で2件、人員で2人増加した。

いじめに起因する事件の年別推移

